

▶ 第10章

制裁で立ち消えた中国との経済交流

一般財団法人霞山会 主任研究員

堀田 幸裕

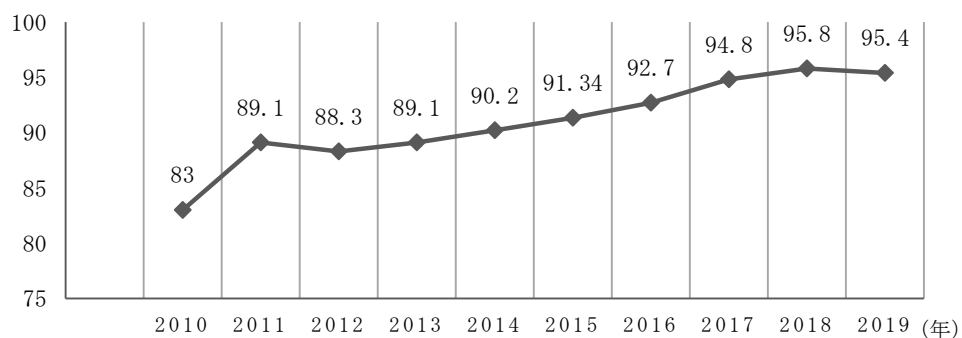
【ポイント】

- ▶ やや疎遠になっていた中朝が活発な交流を持つようになるのは、2010年と2011年である。この時期、金正日は健康不安を抱えており、金正恩への権力継承に向けた動きが始まっていた。
- ▶ 安定的な政権移行のためには中国の後押しが重要であるとの認識からか、金正日は短期間の訪中を繰り返す。結果、中朝貿易は飛躍的に伸び、中朝の経済開発も推進された。その中で張成沢の存在感が誇示される場面もあったが、表向きの成果は見られないまま彼は失脚する。
- ▶ 2013年以降は、繰り返される北朝鮮の核実験と弾道ミサイル発射実験に対して、中国は国連安全保障理事会での制裁決議に同意する。16年以降のターゲット制裁の影響を受けて、中朝貿易は18年以降に急減した。だが、18年以降は北朝鮮が核実験や大陸間弾道ミサイル（ICBM）の発射を中止していることを受け、中国は制裁緩和を主張するようになっている。



注目データ

北朝鮮の対外貿易総額に占める中国の比率（％）



資料：G T A (Global Trade Atlas)